

経済学特殊講義 I

科目ナンバリング ECP-403
選択必修 2単位

小林 成弘

1. 授業の概要(ねらい)

経済学のテキストは一般に、数多の経済学の先人たちが数百年かけて築き上げてきた経済理論の完成された姿が様々紹介されています。それら理論は長い年月をかけて洗練され、抽象化されてきたものですが、経済学の初めて学ぶ若い学生たちがこうした理論をいきなり教わっても、現実社会を理解するためのツールとしてのどう役立つのかをなかなか実感が持てず、どこか余所余所のい学問に感じて戸惑うことも少なくないように思います。しかし経済理論は、時代時代の抱える様々な経済問題をその時代に生きた知の巨人たちが「何故そのような問題が生じるのか?」「問題の発生メカニズムはどうなっているのか?」「どのようにすれば解決できるのか?」といった単純な問題意識を出発点として発展してきたはずです。そうであるなら、先ずは人類の歴史の中で時代時代にどのような経済問題が発生したのかを学び、その中でどのような形で経済メカニズムの解明が試みられ、経済理論が構築されてきたのか…という手順で経済理論を捉え直していけば、経済学はより現実の人間社会に即した身近な学問であるという実感が持てるのではないのでしょうか?

そこで本講座では先ず経済史を概観することからスタートし、その歴史の中でどのような経済理論が生まれたかを講義していくことで受講生がこれまで大学の授業で学んできた経済学の基礎知識の再確認・復習を行い、さらに時間が許す限り最近の経済理論の紹介も行っていきたいと思います。なお、公務員志望の学生もいると思いますので、公務員試験の過去問を使った演習も随時取り入れていきます。前期は「ミクロ経済学」を、また後期は「マクロ経済学」を中心に講義を進めていく予定です。

2. 授業の到達目標

「経済史」と「経済学史」と「経済理論の復習と演習」を交えながら講義を進めることによって学生が経済学をより身近に感じられるようになり、学部で当然求められる経済知識の再確認と涵養を図ります。

3. 成績評価の方法および基準

期末に行うペーパーテストの成績を基礎点(評価配分=約70%)とし、これに普段の授業への取り組み姿勢(義務的課題の提出や任意レポートの提出など:評価配分=約30%)を加算して総合評価します。ただし、この成績評価は15回の授業すべてに出席することを前提としたものですので、授業を休んだ場合は(やむを得ない事情による場合を除き)欠席回数に応じて総合点から減点します(最大30%減点)。

なお、以下のような迷惑行為や不正行為があった場合は、大幅な減点となります。(最大100%減点)

- ①授業中の私語や、他の学生に迷惑や悪影響を及ぼすあらゆる「迷惑行為」
- ②出席の偽装、テストにおけるカンニング、レポート等におけるネット情報等のコピー&ペーストなどあらゆる「不正行為」

4. 教科書・参考文献

教科書

ナイアル・キシティニー 『若い読者のための経済学史』(すばる舎)

井上義朗 『コア・テキスト 経済学史』(新世社)

参考文献

『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ(ミクロ経済学)』(実務教育出版)

村尾英俊 『公務員試験 最初でつまづかない経済学(ミクロ編)』(実務教育出版)

日本経済新聞社編 『経済学の先駆者たち』(日本経済新聞社)

5. 準備学修の内容

授業は講義の都度配布(またはLMSに掲載)するパワーポイント資料に沿って進めます。

資料は情報量が多変多いので、授業に出席せずテスト直前に配布資料だけ読んで勉強しても解答することは到底不可能です。必ず毎回に出席し、何か問題なのか、何が重要ポイントなのか、理論の前提条件は何かといった点を丁寧に確認しながら経済理論がどのように展開されているのかを、毎回欠かさず復習するようにしてください。

なお、講義内容の理解を深め知識の定着を図るため、時折、授業の中で公務員試験に出る経済問題などを出して解説していく予定です。これらの問題に欠かさず取り組んでおけば、期末テストで特に苦勞することはなくなるでしょう。

6. その他履修上の注意事項

経済学の様々な理論が、どのような社会状況下で生まれたのか、その理論はどのような前提条件で構築されているのか、その理論を巡ってどのような経済論争が巻き起こったのか、といった点を特に意識して聴講するようにしてください。なお、今学期は全15回の授業のうち対面授業が14回、LMS授業が1回となっていますが、LMS授業の実施日については後日、授業の中でお知らせします。また、今期の講義予定を不足なく実施するため、15回の授業とは別に、補講の形でLMS授業を行うことがありますのでご承知おきください。

7. 授業内容

- 【第1回】 原始～古代の経済思想
- 【第2回】 中世の経済思想
- 【第3回】 大航海時代の経済思想
- 【第4回】 重商主義の経済思想
- 【第5回】 重農主義の経済思想
- 【第6回】 イギリス産業革命
- 【第7回】 古典派経済学の自由思想(アダム・スミス、セイ)
- 【第8回】 古典派経済学の確立(リカード)
- 【第9回】 マルサスvsリカード論争
- 【第10回】 新古典派の経済思想と効用論(ベンサム、メンガー、ジェボンズ)
- 【第11回】 無差別曲線と最適消費
- 【第12回】 部分均衡論
- 【第13回】 エッジワース・ボックス
- 【第14回】 パレート最適と厚生経済学
- 【第15回】 前期のまとめ